特集 持続可能な社会指標を考える

国家の開発の方向性を表す主観的指標
～ブータンの国民総幸福

大阪大学グローバルコラボレーションセンター副センター長 草郷（くさごう） 孝好（たかよし）さん

客観指標だけで十分なのか?

開発学は極めて実践的で、ある意味先駆的な学問です。どの国でも地域開発計画を策定しています。経済を中核に据えていることが多いのですが、とくに重要なのが指標の構築、選択と活用です。例えば政策の妥当性や社会への適応性のモニタリングのために指標を作り、活用します。開発達成目標の設定や、達成度合いを計測する場合の尺度としても使われます。これは開発学を学んだ後、実際にどのように政策に活用するのかということにつながります。

開発学における開発目的や政策の中身が変わってきています。1950年代から90年代までの主な開発目標を見ると、最初は経済開発に関係する指標を使っていました。70年代には社会開発関連の指標が取り込まれ、90年代には人間開発指標も登場しました。共通するのはいずれも客観的な指標という点です。

客観的な指標だけを追っているうちに、自分たちが本当に目指す開発のあり方とは何なのかと疑問がわいてくるようになりました。次第に、生活の評価を生活当事者が行うという視点が注目されるようになり、客観指標で計測し得ない開発のもたらした生活改善の質に関しての評価を主観指標で捕捉するというアプローチへの関心が高くなってきています。生活の質とか満足感、幸福度などの主観的指標に関心が向かい、これがブータンのGNH（Gross National Happiness：国民総幸福）への関心につながっていると思います。

ブータンで行われた幸せに関する調査

ブータンは中国とインドに囲まれた、面積は九州程度の大きさの、小さな国で人口は63万4,982人です。現在、立憲議会制民主主義国家に移行中で、28歳の第五代国王が君主になっています。

第四代国王の王妃が日本を訪問された際「ブータンは、仏教に根ざしたブータン文化に立脚した社会を基盤として、近代化を目指している。つまり、GNHは仏教的人生観に裏打ちされたもので、私たちが新しい社会の発展を考える上の指針となるものです。今日、最も重要な課題は、西洋的政治や経済の理論と仏教的洞察との間の溝を埋めることなのです」と演説されました。

ブータン政府は実際にGNHを政策の中核に据えています。公正な社会経済発展、環境保全、文化保全、良い統治という四つがGNHの大原則となっているほか、ブータン人がより高い生活の質を実現できるよう政府の役割を果たさなければいけないと、ブータンの憲法第9条において明確に国家政策をGNHに依拠するとしています。

また、本憲法草案は「個人の自由と人権を保障する」「10学年レベルまでの無償教育を保障する」「プライマリヘルスケアの無償提供を保障する」「働く権利を保障する」それから「国土の最低60%を森林として保全する」など、個別の保障内容を具体的に記述している点も特徴的です。

GNHに沿って政策をつくる際、ブータンの目指すGNHとは何かを形にしなければいけませんから、ブータン研究所（CBS）がGNH指標開発に取り組んできています。

幸福度の高いブータンの人たち

2006年から2007年にかけて、CBSはパイロット調査を実施しましたが、現在はその本調査に入っています。本調査で出てくるデータをもとに、ブータン・開発指標（BDI）を作り、第十次開発計画の中に組み入れていくことになるのでしょう。

さて、この調査では「あなたが幸せな人生であるために欠かせないことは何ですか？」という質問がありました。この質問に対して、第1位に輝いたのは「フィナンシャル・セキュリティ」でした。ブータン人自身も、この結果に対して、まさかお金が1位に来るとは思わなかったと感じたという意外性のある結果です。

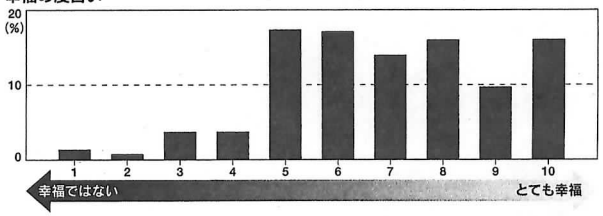
しかし、2番目、3番目では家族、健康と、日本人と大きく変わらないように思います。ただし、7番目に信仰心というのがありますが、チベット仏教に根ざして生活している人たちなので、信仰の面とか心の平穏が重要であることの現われなのだと思います。また、14番目に国王のことが出てきています。国王がこのような平和なブータンをつくってくれたので私たちは幸福だということなのでしょう。

幸福の度合いを10段階で尋ねたところ、回答の平均値が6.93でした。「幸福ではない」と答えたのが350人中たった5人しかいないというのは衝撃的な数字です（図）。日本の内閣府が実施した2005年国民生活選好度調査で「生活に大いに満足している」との回答は回答者全体の4%を切っています。別のデータを見ると（図）、家族関係の満足度について、「満足」と「ほぼ満足」を足し合わせると96.9%が満足しています。健康面、経済面、仕事面、それ以外の項目についても「満足」と、「ほぼ満足」を足し合わせると最低8割あります。人生の満足度はかなり高いことがわかります。

ブータンにおける人生の満足度

	満足	まあ満足	あまり満足ではない	満足ではない
健康	56.0% (196)	34.0% (119)	5.4% (19)	3.4% (12)
経済面	39.4% (138)	40.9% (143)	13.4% (47)	5.4% (19)
仕事	62.9% (220)	26.9% (94)	6.0% (21)	1.7% (6)
家族関係	86.6% (303)	10.3% (36)	2.3% (8)	0.3% (1)

幸福の度合い



第3回GNH国際会議の開催

GNH国際会議は、第1回目がブータンにて2004年2月にCBSが主催して行われました。2007年11月にタイで開催された3回目の会議では、タイの首相とブータンの首相のほか、20ヵ国から約500人が集まりました。

第3回GNH国際会議の場でブータンのGNHインデックスの発表が期待されていたのですが、結局発表されませんでした。できていなかったというのが正直なところでしょう。実際、国際標準になる指標の開発を目指していたのかもしれませんが、その開発が果たしてブータンにメリットがあるのかどうかを考え、結論として国際標準指標の開発よりもブータンの国づくりにとって必要とされる指標を作ることを選択し、将来、ブータンの指標を参考にしながら他の国でもGNHインデックスを個別に作っていく方がいいと方向を定めたのではないのかと思っています。

GNHの必要性とは何か、指標なのかそれともコンセプトや考え方が大事であるのか、開発の方向性を考えるためのGNHの果たす役割を重視するのか、まだまだこれから議論の余地は大いにあるでしょうし、私を含めた研究者がどのような貢献ができるのかが重要だと思います。幸福度などの主観指標を盛り込み、総合的に生活状態を評価するという視点で、幸福度と教育の関係、満足度と健康状態の関係など、多面的に生活状況のレビューを行い、国別のGNH報告書を作っていくということも検討の余地があると思います。

第4回目のGNH会議はおそらくブータンで開催されるだろうと言われています。ブータンが「自分たちはこういうふうにした！」とBDIとその活用経験の発表の場にしたいのではないかと思っています。そういう場での意見交換に期待をしたいと思います。